

保育者向けジェンダー平等教育講座 開催

～ジェンダーバイアスを取り除き、一人ひとりの多様性を認める保育～

グローバルキッズ（東京都千代田区：代表取締役社長 中正雄一）は、2021年9月6日（月）に保育者向けの研修として、ジェンダー平等教育講座を開催いたしました。

今回の講座は子どもを中心にした保育の実践を考える研修の一つとして実施、「保育の場面に必要なジェンダーへの配慮」について学ぶ保育者向けの講座で、性的指向・性自認（SOGI）に関する基礎を学び、すべての人に必要な人権感覚・意識を深めるとともに、実際に保育の場面で起こりやすいジェンダーバイアスと、その対応について検討。

また、昨年度先行して講座を受けていたグローバルキッズ茗荷谷園（東京都文京区）からジェンダー平等教育実践の具体的な取り組みや課題（子どもの整列時に男女別にしていないか、シールの色やマーク等を先入観で決めていないか）が報告され、多くのことを学ぶ機会となりました。

～概要～

■開催日時：2021年9月6日（月）13:00～15:00 オンライン開催

■テーマ：「保育とジェンダー」～ジェンダーに学ぶ多様性～

■講師：内海崎貴子先生（川村学園女子大学教育学部 児童教育学学科科長）

■経緯：2020年度大妻女子大学CDP※にて、「保育・教育の場での少子化対策」をテーマに、学生たちに自分たちの希望する将来像や幸せを重ねて検討いただき【幼少期からのジェンダー教育の重要性】の提案があがった。

現在の日本の子育て環境は、「母親業」としての負担が非常に多く、このままでは子どもを産みたい・育てたいという人は増えず、少子化は止まらない。もっと子どもを育てやすい環境を整える必要がある、という考えからの提案だった。環境を整える方法として、そもそも「母親業」という概念は、知らず知らずのうちに決められたジェンダーバイアスの表れで、子育ては母親が負担するだけで成り立つものではない。幼少期から、母（女）はこうあるべき・父（男）はこうあるべき、という固定概念が作り上げられない環境で育てば、子どもを中心にもっと多くの大人が子育てに関わることができ、将来的に子どもを産み・育てやすい環境に変化していくのではないかと考えるものであった。

今回のこの結果を、「学生たち自身の将来像や幸せへの提案である」と、子どもたちの未来を考える会社として真摯に受け止めた。本提案を受けて、まずは子どもたちの体験者となる保育者が正しい知識を得て、取り組みを検討していくために、川村学園女子大学教授 内海崎先生にご協力いただき、勉強会を開催する運びとなった。※CDP（キャリア・ディベロップメント・プログラム）：企業側から提供する課題を、学生同士がグループで調査検討を行い、解決策や新たな考えを企画、立案する授業。

■2021年度の活動内容：保育者向けに本講座の開催。チェックリスト（ガイドライン）作成のための、実施記録・変化の記録を実施中。※2020年度より先行して6施設で実施中。

OSDGs目標5：ジェンダー平等を実現しよう

今後もグローバルキッズでは、子ども一人ひとりの持っている力が生かされ、成長と個性に応じた多様性のある保育の実践へ向け、保育者向け研修として、このような講座を積極的に実施し、保育の質を高めてまいります。



SDGs対比	事業・企業活動を通じて解決する社会課題	主な取り組み
3 健康な生活	保育	子育て支援の底上げ(賃、働)
5 ジェンダー平等	女性活躍推進 多様性	● 質の高い保育の実現 ● 保育所の新規開設 ● 児童発達支援施設の拡充 ● 健康を支える給食の提供 ● 食育への取り組みを実施
4 質の高い教育	人材育成	● 子育て世代が安心して働ける保育の受け皿創設 ● 多様なライフスタイルに合わせた働き方 ● 充実した休暇制度 ● 出産・育児に係る制度 ● 介護に係る制度
8 働きがい	地域に対する社会貢献	● 柔軟な働き方改革 ● 学べる環境づくり ● 成長に応じたキャリアパスの設定
11 持続可能な都市	地球環境	● 地域における子育て拠点化 ● 虐待防止、貧困対策への貢献 ● 地域社会の雇用創出 ● 地域の災害時避難拠点化 ● 食品ロスの削減活動 ● 紙おむつのリサイクル ● 不要となった給本を保育所利用者等から回収し海外に寄付 ● 照明のLED化推進によりCO2排出の削減 ● 園産木材の積極活用を通じ園内林業の活性化・森林保全の推進

当社のSDGs（持続可能な開発目標）への取り組み
※グローバルキッズCOMPANY 2020年9月期 決算説明会資料より抜粋

【お問い合わせ先】

株式会社グローバルキッズ 社長室 広報・秘書グループ

〒102-0071 東京都千代田区富士見二丁目14番36号

Mail : press@gkids.co.jp